

Two-Forty 誌

JN1PYA

240グループ25周年、そしてミニコミ誌は65号発刊、おめでとうございます。

タイトルの Two-Forty はご存知の通り「240」のことですが、アイデアは創刊当時のインタビューコラム「Tea for Two」(二人でお茶を)に起因しています。

毎日の QSO では語り尽くせない内容やメンバー紹介、心に残った言葉などを記録しておこうということで発足したのが Two-Forty 誌です。

当時はパソコンもまだ8ビットの時代、ミニペンで手書きしたものをコピー機で複製してホッチキスで留めて製本したのですが、「将来はこれをワープロで打ってきれいにしたいな・・・」と思ったものでした。当時も研究熱心なメンバーがいらして製作記事やインタビュー取材など、原稿もポツポツ集まり、何号かを発行しましたが、多忙を理由に当方もお手伝いをあきらめざるを得ない状況となり、申し訳なく思っております。

それにしても時の移ろいは早いもので、当方は1981年開局以来常置場所としてきた世田谷若林の7階屋上にあったアンテナを降ろし、体調を崩す前にという主治医のアドバイスもあり、2001年春に塩山に移り住みました。

当方の本業は広告制作関連ですが、ここ塩山でもわずかに本業を継続しながら畑を借用して、桃やぶどう(生食用ピオーネとワイン用品種)、干し柿の原料になる柿を生産しはじめ、まだ新米農家ですが今は農協の組合員になって出荷をしています。(農業高齢化のために畑は比較的楽に借りることが出来ました)

春は一面ピンクの桃の花、そしてぶどうの産地として知られる塩山ですが、当方のロケーションは、北に秩父連山、東は大菩薩、西も 1000mの扇山、南のみ、御坂連山の頭越しに富士山の7合目から上が見えるという、まさに盆地の中で無線には不適なところ。

それでも庭に4枚の敷石を置き、本来は屋根に乗せる 4.5mのルーフトワーを敷石の上に乘せて、四方ステーをとっただけの簡単タワー？を建ててみました。

7~28MHzはロータリーダイポール、50MHzは移動用の2エレ HB9CV、430MHzは 12X2 のカーテンビーム(富士山反射のみ)。これで電波が飛ぶのかという実験局みたいなものです。

場所の簡単な説明は、青梅街道・柳沢峠から塩山に下ると、千野橋の手前に塩山北中学校がありますが、そこから北方向へ 1.5kmくらい離れたあたりです。以前から 240 はメモリーに入っていますが、ごくまれにどなたかの交信が聞こえる程度でにとどまっています。

塩山市も勝沼町、大和村との市町村合併で、昨年11月から「甲州市」という名前に変わり、しばらくは JCC ハントの標的としてにぎわいましたが、今はまた静かになりました。夏は農業で忙しいのですがお近くをお通りの際は念のため ON-AIR してみてください、ひょっとしてコールできるかもしれません。